

今後の庁舎建設に係る意見一覧 ＜市民懇談会＞

＜開催状況＞

第1回懇談会

平成26年4月19日（土）午後1時～午後2時

参加者：10名

第2回懇談会

平成26年5月17日（土）午後1時～午後2時

参加者：9名

第3回懇談会

平成26年6月14日（土）午後1時～午後2時

参加者：8名

第4回懇談会

平成26年7月12日（土）午後1時～午後1時50分

参加者：15名

庁舎建て替えについて

●新庁舎建設にあたって

- ・今の市役所には用事がないと来ない。庁舎が新しくなるからには、皆が集えるものにしたいたい。
- ・ワークショップは、子育て関係者や障害・ボランティア団体が入って議論しているところが良い。それ以外にも、定住外国人やセクシャルマイノリティの方など、様々な方の声を拾った庁舎になればいいと思う。
- ・将来の行財政を見据えて、どのような庁舎が必要なのか戦略的に考えるべき。市川市は特徴のない市なので、市政戦略に相当の工夫が必要である。

●庁舎の集約化

- ・少子化により生じた学校の空き教室に市役所の執務室を作り、庁舎を分散化してはどうか。
- ・市庁舎の機能は、市民、議会、市長と実働部隊（職員）の3つがうまく噛み合っただけで進んでいくことが必要。この3つが本庁舎にあれば、実働の部分である職員は分散していてもいいのでは。
- ・組織改革を行って庁舎を分散し、家から歩いて行ける距離にある市役所にするのが、利便性・安全性・迅速性の面で見てもいいと思う。

- ・高齢化が進む中、高齢者は市役所へ来るにも人の手を借りる必要がある。分散した庁舎に係課をまとめて、現役の人間が目的に応じて車で行くほうが負担は軽いのではないか。
- ・分散化した場合に、1つの場所で用件が終わることはないと思う。
- ・分散化すると行政がさらに縦割りになる可能性もある。

●他の公共施設の建て替えとの連携

- ・今後建て替えが考えられる市の施設全てに対して、将来を見据えた行政運営の方針を定めて、どこにどのくらいの面積のものを作ればいいのか考えて割り振ってほしいと思う。
- ・公共施設の建て替え等にあたっては、縦割りを排した検討体制を考えてほしい。
- ・市民会館の建て替えについても、他部署を巻き込んで、話し合う機会があれば良いのではないか。
- ・ワークショップでは良い意見がたくさん出ているので、最終的にワークショップの報告書を作る段階で、基本設計には落とし込めなくても、別のところで将来に活かして欲しい。

●庁舎の耐震化

- ・東日本大震災後、耐震化されていない庁舎で働く職員は、余震のたびに安全な場所に避難しなければならなかった。そうすると仕事にならないし、職員は精神的にも疲弊した。安全性を確保することは重要である。

協働テラスについて

- ・先の大震災の際に、共助が重要な役割を果たすことを教えられた。手続きの庁舎から、市民協働の庁舎にならなければならない。
- ・協働テラスは大切な機能。この意味を考えることは、市庁舎の役割を考えることになる。
- ・将来、市民は自分のことは自分ですということが基本の時代になる。市民の自主的な活動をどうやって行政がサポートするかを考える体制になっていかなければならない。
- ・協働には、市民同士、市民団体同士、市民と議員、市民と市長・職員が交流できる場が庁舎の中心にあることが大事。
- ・市政全般に渡る色々な問題を、市民が参加して協議できる場として、本庁舎に協働スペースがあることは意味があると思う。本庁舎にある、市民・行政・議会がフラットな関係で話し合いができ、解決できる場所という機能が必要。
- ・市川には皆でやるお祭りのようなものがないので、協働スペースで開催できればいい。例えば屋上菜園を作り、市民が農耕して、年に1回ビールをふるまう収穫祭などがで

きればいいのではないか。

- ・1%支援制度を行っているが、支援をしてもどのような活動をしているか見えない。協働テラスに中を覗けるような打合せスペースを作り、そこで活動してもらえばいい。
- ・NPO・ボランティアの活動拠点などは、活動している人に直接聞いて検討すべき。
- ・協働テラスについて、委託先などについて議論する機会が欲しい。
- ・新庁舎のエントランスホールに、市が所蔵している美術品を展示してはどうか。
- ・将来庁舎を使うことになる子どもたちの意見を吸い上げる機会があると良い。

市民ワークショップ・懇談会について

- ・懇談会の議事録を作成して、他の参加者へも全体化するようにして欲しい。
- ・ワークショップ・懇談会に関する資料および会議録をホームページに掲載して欲しい。

議会スペース・市長室について

- ・協働のためには、市民同士、市民団体同士、市民と議員、市民と市長・職員が交流できる場が庁舎の中心にあることが大事だ。市民協働の場に、議場と市長室もあることが理想。
- ・議会関連スペースである委員会室関係、議場、傍聴席は5階以上に配置されていて、エレベーターで上がるしか行く方法がない。協働スペースとの一体性や、お互いに融通をつけるような動線がないために、議会が特別なものになってしまっては困る。
- ・議会と市民・市民団体が協働スペースで集まるような接点なり、協議ができるような動線・仕掛けを考えて欲しい。例えば、協働テラスに、議員の出退表示パネルを設置するなど。

行政運営について

●将来の市政の見通し

- ・市は、50年後、100年後の組織改革を考えた上で設計プランを考えているのか。建設費用は市民の借金であり、次世代、次々世代に引き継がれていく。少子化・高齢化社会において、子どもや老人に使うべき資源や費用を、戦略的に考えるべき。

●市の財政状況

- ・子どもの学校の図書館への補助金が打ち切られたり、学校の設備に不足があったりする。庁舎建て替えについて、協働テラスでのコンサート・映画の上映などと夢のような話をしていたが、庁舎だけが立派になるのはおかしいと思う。
- ・これから歳出がどんどん増えていく中で、対応を考える必要がある。

●IT 化の促進

- ・ペーパーレス化を進めて欲しい。例えば、船橋市は自宅でパソコンから自転車駐輪場の予約ができる。他市がやっていることは導入して欲しい。
- ・市川市は高齢者が多いので、IT 化を進めるだけではサービスが充分になるというわけではないと思う。高齢者がどの程度 IT 技術に理解があるのかも不明である。機械に頼れない人もいるので、来て安心できる庁舎にしてほしい。

道路について

●車両動線

- ・車のメインの出入り口が西側の路地にあるが、待機車両によって、歩道橋のあたりが渋滞してくるのではないか。必ずしも西側に入り口を設けることが良いとは思えない。西から入るにしろ東から入るにしろ、待機路線を庁舎の前面で消化するとすれば、もっと庁舎の面積を狭くしなければならなくなる。東側の土地を買い増して東側をメインの入り口にしたらいいのではないか。

●自転車交通について

- ・庁舎の西側の通りは通勤時間帯の自転車交通量が多い。自転車の交通についても考慮すべき。
- ・庁舎北側の朝の時間帯に自転車交通が集中することへの配慮をして欲しい。

●道路の渋滞

- ・千葉県の道路交通状況は全国ワースト 7 と悪い。道路の補修はしてもらえても、歩道は一向に広がらず危険な状態。道路の渋滞というのは経済損失に繋がる。庁舎の出入り以前に、市の動脈となる道路の整備についても国・県とともに検討すべき。

●周辺道路への要望

- ・踏み切りの幅を広げて欲しい。
- ・北側からの歩道を、庁舎わきを通り抜けられるよう延長して欲しい。

●建物前面道路について

- ・北側斜面だけでなく、国道 14 号側から見た景観についても配慮が必要。前面道路が拡張されたときに、建物と道路の間が非常に狭くなり、並木もとれないような殺伐とした歩道ができてしまうのではないか。西側の敷地を広くして前庭とし、松やバラを植えるようにできないか。

市民への周知について

- ・ワークショップの開催経過等を広報いちかわに掲載して欲しい。また、今後の事業についても、市民への周知を念頭に置いて進めて欲しい。

- 広報を実施していても、知らない人がたくさんいるということを市に知っていて欲しい。
- 庁舎建て替えにかかる費用についても広報し、若い市民に見せて欲しい。見てもわからない人もいるので、解説も載せるべき。
- 市は建て替えに関する情報や説明会のお知らせを広報に載せている。気づくか気づかないかの差だ。
- 広報の第一面にあまり重要でない記事が掲載されているが、もっと市民に周知すべきことはある。
- 市民が市政に興味を持てるよう、広報に市民と共に考えるような、市民を取り込むようなアイデアが出てくるといいのではないか。
- 新庁舎建設の経験を踏まえ、広報に関する評価改善システムを作ることを要望する。
- 10月の説明会の際には自治会の回覧板でお知らせをして欲しい。